

「現地を訪問して想うこと」

2003年 文学部卒 松野 由佳

今回の東北応援ツアーで震災後、初めて東北を訪れました。震災から4年半以上経ちましたが、まだまだ震災の爪痕が至るところに残っているのを感じました。

1日目、三陸鉄道の熊谷さんにお話を聞きながら釜石駅から盛駅まで乗車しましたが、熊谷さんのお話によると震災による人手不足で全ての工事が遅れているとのことでした。また、東日本大震災では適切な場所に避難できたかどうかで生死を分けることになったという話を聞き、いざという時に焦らず行動できるよう、日頃から自然災害に対する意識を高めていく必要があることを強く実感しました。

岩手県校友会の先輩方からも貴重なお話を聞くことができました。当時市役所にお勤めだった金野さんが、震災直後、自分の家のことも大変なのに、市民優先で様々な問題を解決しなければならなかったというお話をされていたのが印象的でした。東日本大震災は未曾有の大災害だったため、混乱した状況のなか、被災された方は生きていくのに必死で、震災発生時はショックを受けている暇もなかったと思います。

宿泊先の陸前高田市に着いた頃は日が暮れていてよくわかりませんでした。翌朝になってホテルの窓から見た景色に驚きました。震災前は商店街や住宅があったとのことでしたが、その面影は全くなく、一面が更地となっており、震災の爪痕を一番感じる場所でした。ほとんど全てが津波で流されてしまった中、唯一残った奇跡の一本松も車窓から見ることはできましたが、このような状況でよく流されずに残ったと思います。一本松が残ったのは目の前にあったユースホステルの建物が津波の衝撃を和らげたとのことですが、改めて自然の脅威と、たくましさを感じました。

2日間の短い時間でしたが、今回岩手県を訪れ貴重な経験ができました。震災から日が経つにつれ、つい震災のことを考える時間が少なくなってしまうかもしれませんが、私にできることはいつまでもこの震災が起こったことを忘れず、今後いつ起こるか分からない災害に備えることだと思います。

今回のツアーでは岩手県校友会の方々をはじめ、東北の方は行く先々で非常に温かく私たちを迎えてくれました。震災を経験しながらも皆さんが前向きに頑張っておられる姿を見て、逆に元気をもらった気がします。これからも定期的に東北に足を運び、震災の復興を自分の目で確かめることができたらいいと思います。